

■Major League Fishing Japan Biwako BMC Pro Series ルール

<エントリーおよび参加資格>

- ボーターは18歳以上で、なおかつ2級小型船舶操縦士以上の資格を有している者に出場資格を与える。
- すべての出場選手は「スマートスケール」および「スマートレスキュー」アプリを自身のスマートフォンにインストールし、登録を完了すること。また「スマートスケール」の登録名は本名、ニックネームは本名を英語表記で行うこと。
- MLF Japan が主催するイベント（以下、イベント）では船体全長18フィート以上、エンジン175hps以上のボートを使用すること。
- 使用するボートは必ず船舶保険（対人、対物、搭乗者への補償があるもの）に加入していることを条件とする。
- 出場選手は円滑かつ効率的なコミュニケーションを確保するため、携帯電話番号とメールアドレスをオフィシャルに提供する。登録情報に変更が生じた際は、速やかに報告すること。また登録完了後、アナウンスにしたがって公式ラインアカウントにも登録すること。
- イベントで撮影されたすべての写真および動画はMLF Japan に帰属する。撮影された素材はMLF Japan のライブ配信、ウェブサイト、SNS 各種、および印刷物などに使用する。
- イベント全戦でライブ配信を実施する（一部、外部業者に委託する場合もある）。したがって選手個人によるライブ配信はこれを認めない。また、YouTube 等 SNS 用動画の撮影を行いたい場合は、事前にオフィシャルの承諾を得ること。
- すべての出場選手はMLF Japan オフィシャルが定めたルールを理解し、遵守することを示す誓約書（エントリーシート裏面）に署名すること。

MLF Japan Entry Sheet	
MLF Japan Biwako BMC Pro Series STAGE ()	
Name	Mobile Phone
Boat/Engine	Engine (Horsepower)
Tackle Check	
小型船舶操縦士免許	ライブウェル確認
船舶検査証・船舶検査手帳	キルスイッチ
船舶保険証書(写し)	ライフジャケット(検印)
赤バケツ	スマートスケールアプリ
救命浮環	
救命胴衣	
信号紅炎	
笛	

※右欄の□にシールでチェックする。欄外にない項目には別紙を入れる。

エントリーシート（表）

トーナメントアングラーの誓い	
私は Major League Fishing Japan が主催するイベントに出場するにあたり、以下の事項を遵守します。	
・主催、運営団体の定めるレギュレーションを遵守し、いかなる不正も行いません。 ・健全かつ公正なトーナメント運営のため、他人の不正も見逃さず報告するとともに、疑義の有無についても積極的な情報提供を行います。 ・フェアな環境下で釣果を競い合うイベント本旨に従い、他メンバーに不当な差損をしません。 ・アングラーの共通資源であるフィールドを守るため環境保護およびバスの保護（生体保護）に努めます。 ・レギュレーションの適用や上記の各事項に関して当事者間での疑義が生じた場合には、主催団体の裁定に服します。 ・MLF Japan 競技規則に則り、競技中は釣ったバスの入れ替えおよびリリースを行いません。 ・「琵琶湖のレジャー利用の適正化に関する条例」をはじめ、「ヨシ群落保護条例」「水上安全条例」などのルールを遵守します。	
本誓約に反し、違反行為などが認められた場合には、当該違反が判明したイベントに限らず、MLF Japan のすべてのイベントで得た賞金全額を没収に返金します。また、違反内容によっては、刑事訴訟や別添の損害賠償請求を受ける可能性があります。十分にご理解の上、本イベントに参加します。	
年 月 日	
(白署)	

エントリーシート（裏）

<スポーツマンシップ>

- スポーツマンシップとは、MLF Japan のイベントに出場する選手、または一般のアングラ（非競技者）、オフィシャル、スポンサー企業などに対する攻撃的、あるいは敵対的な行動、および個人に対する冒涇的な言動を指す。著しいスポーツマンシップ違反が現認された選手は出場資格を剥奪する場合がある。
- 受付および表彰式の際、トーナメントジャージの着用を義務とする。
- 魚の保護と保全は最優先事項とする。キャッチしたバスについても、無闇に抜き上げない、デッキに落とさない、リリースまでライブウェルに一時的にキープする、などの配慮を常に行うこと。などの配慮を常に行うこと。
- MLF Japan はオフィシャル、スタッフ、スポンサー、ギャラリーおよび漁業関係者に不利な影響を与える行為の一切を容認しない。
- MLF Japan に所属する選手はスポーツマンシップに則り、ルールとマナーの遵守、および安全第一と環境保護の精神をもってイベントに出場すること。
- プラクティスおよび競技時間中のアルコールまたは薬物の摂取は厳禁（ただし市販薬、または医師の処方箋による薬剤は可）。
- 他の団体から課せられた失格、出場停止、または懲戒処分の内容によっては、MLF Japan が主催するイベントへの出場を認めない場合もある。

<エントリー方法>

- ① スマートスケールアプリとスマートレスキューアプリを自身のスマートフォンにインストールする。
- ② インストール後、それぞれ必要事項をすべて記載し登録する。

■注意

- ・画像は必ず上半身、トーナメントジャージ着用、偏光グラスなしのもので登録
- ・ニックネームは本名を英語表記

例) 大山太郎 → Taro Oyama

- ③ 入会金、年会費をスマートスケールアプリより決済する。

※必ず入会金および年会費は期日までに決済を行うこと

※エントリー期間は2025年12月1日～2026年2月28日までとする

<各イベントへのエントリー>

- ① スマートスケールから、当該イベントにエントリーする。
- ② エントリーフィーをクレジット決済する。

<連絡事項>

- ◆ オフィシャルからの連絡事項は、スマートスケールアプリから発信するため、こまめに確認すること。

<エントリーフィー>

- ◆ MLF Japan に出場する選手は下記のエントリーフィーを支払わなくてはならない。
 - ボーター
 - 入会金：¥44,000
 - 年会費：¥66,000
 - エントリーフィー（2days）：¥38,500
 - ※金額はいずれも消費税込み。
 - ※入会金は1年以上のブランク（未登録）があった場合、再登録する際に改めて¥44,000の支払いが必要。
- ◆ 入会金および年会費は「Smart Scale」アプリからの一括での決済とするが、各イベントのエントリーフィーはそれぞれ指定した期日までの決済も可とする（一括での決済も可）。
- ◆ イベント当日、スマートレスキューアプリの「1day プラン」に加入し、端末のGPS位置情報は「ON」にしておくこと

<MLF Japan イベント開催時>

◆ タックルチェック

- 受付前に、タックルチェックを実施する。所定の用紙（エントリーシート）に必要事項を記載し、裏面の誓約書に自署のうえオフィシャルに提出すること。不備があった場合はペナルティを課す。
- イベント出場時に着用するライフジャケットは、桜マーク（国土交通省）がついているものに限る。

◆ 受付

- 混雑を避けるため、速やかに受付を済ませること。
- 受付ではスマートスケールの QR コード読み込みを行う。
- エントリーシートを提出する。

◆ ミーティング

- 規定の時間にミーティングを行う。ミーティング時は必ず、トーナメントジャージを着用して出席すること（雨天時および極寒時はジャケットの着用を認める）。
- ミーティングではルールやエリアなどの説明および質疑応答を行う。

◆ スタート

- 事前の抽選結果に基づき、番号の若いほうから順にスタートとする。2 日目は初日のウエイトが高い方から順にスタートする（同ウエイトがいた場合は初日のフライト順の逆）。
- オフィシャルに自分のスタート順と名前をコールされたらフライトプレート掲げて合図を送り、OK が出たあとスタートする。

◆ 帰着

- 帰着時は混雑が予想されるため、船列に並んでいれば帰着時間を過ぎてもペナルティは課さない。ただし、プレーニングを解いていることを条件とする。



- 帰着は棧橋先端に待機するオフィシャルに、自身のフライトプレート掲げ、「OK」の返答をもって完了とする。
- 船を係留後、先にスマートスケールの QR コード読み込みを行う。規定の時間内に読み込みをしなかった場合、帰着は完了していても失格・スコア取り消しとなるため注意。
- 表彰式の時間はオフィシャルよりアナウンスする。時間厳守で出席すること。またこの際も、必ずトーナメントジャージを着用すること。

<イベントルール>

- イベント開催前日はオフリミットとし、競技エリア内での情報集および釣りを禁止する。
- MLF Japan に出場する選手は、トーナメントジャージの着用を必須とする。トーナメントジャージには MLF Japan が規定する 2 種のロゴを規定サイズに則って掲出すること。掲出は胸より上の正面で、できるだけ目立つ位置に入れること。
- MLF Japan Biwako BMC Pro Series はボーター選手の単独出場とする。
- イベントのスコアはボーターが釣ったバス 3 匹の重量で競う。
- 出場選手はアクションカメラで自艇を撮影し、記録媒体を競技終了後、オフィシャルに提出すること。なお、撮影が確認できなかった際、スコアの取り消しおよび順位の降格となる場合もある。
- 年間ランキング（Angler of the Year）は年間 5 戦の総重量によって決める。
- 出場選手は他の選手による規則違反の疑いがある場合、速やかにオフィシャルに報告すること。
- キャッチしたバスは 3 分以内にデジタルスケールによる計測を行い、10 分以内に「スマートスケール」による申請を完了すること。なお、緊急事態でない限り、移動後の計測は認めない。
- 常に安全な速度と操船を心がけ、安全を第一とした配慮を行うこと。
- イベント中に緊急事態が発生した際は、オフィシャルに連絡したうえで対処を行うこと。また状況に応じて、海上保安庁 118 にも速やかに通報すること。
- 荒天予報時のイベント開催について、当日 7:00am 時点の天津市小野を基準とし、天気予報アプリ各種を総合的に参考にして、オフィシャルで協議のうえ開催の可否を決定する。なお、Day2 開催日の予報で天候が回復することが予想される場合、期間短縮による開催とする場合もある。※台風などの影響で警報が発令されている場合は前日に開催の中止を決定することもある。
- 急な天候の変化によってオフィシャルが危険と判断した場合、競技時間を短縮する場合もある。また荒天の際は無闇に動かず、身の安全を最優先すること。
- エンジントラブル等により競技続行不可能となった場合、棄権（失格）とする。

<競技ルール>

- Smart Scale に登録する本人画像は上半身、トーナメントジャージ着用、偏光グラスなしで撮影したものに限る。
- 対象魚はブラックバス（ラージマウスバス）のみ。
- ランディングネットの使用を認める。
- 釣り方はルアーに限り、フライおよびエサの使用は認めない（アラバマリグはフック 1 本、またはハードベイト 1 個のみ認める）。
- 一度に使用できるロッドは 1 本とする。ただしスタックしたルアーを回収する前に、異なるロッドを使用することはこれを認める。もし、スタックを回収する前のルアーでバスが釣れた場合、その魚はスコアの対象としない。
- 陸に上がっての釣りは禁止。ただしボートの位置を保持するため、木杵や護岸などに片足をかける行為はこれを認める。
- 本湖から見てひとつめの橋までは、下船して艇を押すことは禁止。
- 他の釣り人や湖川利用者に迷惑をかける行為および危険行為は厳禁。クレームなどの通報や他選手からの報告があった場合、事情を聴取したうえで処遇について運営本部で協議し、不問またはペナルティーを決定する。
- 魚への細工は厳禁。不正行為が発覚した場合、永久追放とする。またこの場合、過去に獲得した賞金を全額返金する。なお、年利 4 % の利息を付加する。
- サイトフィッシングによってキャッチしたバスは、口の中にフックが掛かっていることを前提とする。
- エンジンまたはエレクトリックモーターを使用したドラッキング（トローリング）は不可。

<検量>

- MLF Japan イベントにおいて、スコアブルバスは 300g 以上とし、その重量未満のバスはスコアとして認めない。
- MLF Japan イベントはデジタルウェイトインとし、スコア集計は「Smart Scale」アプリを使用する。そのため、参加選手は自身のスマートフォンに当該アプリのインストールおよび登録を必須とする。また登録の際、ニックネームではなく本名を原則とする。
- Smart Scale に登録する本人画像は上半身、トーナメントジャージ着用、偏光グラスなしで撮影したものに限る。
- 検量の際、バスはフックを外した状態で行うこと。
- 検量で使用するデジタルスケールは持ち上げた状態で電源を入れ、魚を吊るす前にゼロが表示されていることをコ・アングラーまたは無人カメラに 5 秒以上見せること。
- 検量に関する一連の動作は必ずカメラの前で、映像で確認できるように行うこと。
- 検量はデジタルスケールにバスを吊るし、宙に浮いていることがわかる状態で、スコア（重量）がはっきりとわかる写真を撮影する (①)。さらに規定のメジャーを使用して、魚の全長がわかる写真を撮影する (②)。最後に釣った本人がバスを持っている写真を撮影する (③)。この撮影は基本的にペアの選手（ボーター選手が釣った場合はコ・アングラー選手、またはその逆）が行う。釣った本人は①～③の画像を「スマートスケール」アプリで申請する。
- デジタルスケールにバスを吊るしたあと、魚体に触れることは如何なる理由があっても厳禁とし、やむをえず触れた場合は最初からやり直すこと。
- デジタルスケールは、必ず本体上部にある取手部分を掴むこと。本体側面を持った状態での撮影はこれを認めない（下図参照）。



- デジタルスケールの故障などにより計測できない場合はライブウェルにキープし、帰着時に本部立ち会いのもと計測を行う。ただしキープについては魚のケアに細心の注

意を払うこと。なお、デッドフィッシュはマイナス 500g のペナルティーとする（※デッドフィッシュとはエラが完全に止まっている状態の魚のことを指す）。

- 上記に基づく申請を行った後、魚を持った状態で 5 秒間、艇に備え付けたカメラにスコア（デジタルスケールに表示されたウェイト）を見せること。
- アプリの立ち上げや計測するまでの間、魚を保護するという観点からライブウェルに一時的にキープすること。
- 撮影中、バスがデジタルスケールから外れてデッキに落ちることのないよう、ライブウェルの上、またはランディングネットを下に構えるなどの配慮をしたうえで一連の行動をとること。

<使用艇に関する注意>

- 出場選手がイベントで使用する艇は船体全長 18 フィート以上、搭載エンジンは 175hps 以上とする。船舶検査証の記載事項と実際の使用艇に相違がある場合、MLF Japan が主催するイベントへの出場を認めない。
- ボーター選手は出場登録時に、使用艇の出場登録時に船舶免許、船舶検査証、船舶検査手帳、船舶保険証書の写しを提出すること（登録完了後、公式ラインにて連絡）。
- リチウムイオンバッテリーを搭載する際は、「船検承認」を受けることができる物に限る。
- 2026 年シーズンは魚探画面の大きさやモニターの枚数、ライブソナーの機種や個数に関する制約は設けないが、本国 MLF の動向や国内情勢も鑑みて、シーズン中でも変更する場合がある。
- 艇を運搬するトレーラーは、ナンバーの取得を必須とする。なお、諸事情により仮ナンバーで出場する際は、イベント開催 3 日前までにオフィシャルへの申請を必須とする。
- 法定備品は必ず積載しておくこと。
- キルスイッチはライフジャケットに装着し、エンジンを使用するときのみセットすること。
- ガソリンについて艇に装備されているタンク以外の携行を認めない。万が一、競技中に燃料が不足した場合、オフィシャルに一報を入れ、承認を得たうえでの給油を認める。
- オフィシャルに申請している艇と異なる艇を使用する場合、事前に届出を行うこと。
- 使用する艇には必ず、MLF Japan 規定のエンジンベルトを装着すること。不備があった場合はペナルティを課す。

<成績について>

- 300g 以上のバス 3 匹の重量によって争う。
- 年間順位上位 20 名のボーターは MLF Japan Pro Classic にクオリファイできる。なお、辞退する選手が出た場合は繰り上げ出場とする。
- アングラーオブザイヤーを獲得したボーターは、翌年アメリカで開催される MLF TOYOTA Championship に出場できる。なお、辞退が出た場合は繰り上げとする。

<エリアについて>

- トーナメントエリアは琵琶湖全域。南限は近江大橋までとする。
- 各流入河川に制限は設けないが、1本目の橋から上流はエレキエリアとする。

<釣り禁止エリア>

- 琵琶湖大橋の橋脚を結ぶラインから 50m 以内は禁止。
- 琵琶湖内にあるマリーナ、および個人所有の栈橋での釣りは全面禁止。
- 滋賀県水上安全条例に基づき、近江大橋最頂部を支える 4 本の橋脚間とその周囲 10m は禁止。
- 陸上自衛隊大津駐屯地の岬先端から柳が崎沖の取水塔、浜大津港内（一文字堤防の内側）は釣りおよび進入禁止。ただし危険回避などの場合はこの限りではない。
- 浮御堂本体およびその沖側にあるボールの周囲 5m は禁止。
- 木の浜 5 号水路のオイルフェンスから内側は禁止。また、他の木の浜水路は流入河川と位置づけ、水路内はエレキのみとする。
- エリから 50m 以内の釣りは禁止。
- 堤防が 2 本ある漁港は、それぞれの先端を結んだ内側を禁止とする。港内へのキャストも禁止。堅田漁港は一文字堤防の内側および航路も釣り禁止。
- 浮き魚礁に向かってのキャストは禁止。

<その他の釣り禁止エリア>

- 柳が崎取水塔、びわこ大津館前栈橋～柳が崎ヨットハーバー（図 1）

図 1



- 競艇場北側漁港周辺（図2）

図2



- 浜大津港周辺（図3）

図3



- 赤野井ハス畑
- 矢橋帰帆島水路内のオダ
- 犬上川取水口（赤ブイが目印。アナウンスが流れる）
- 竹生島船着場
- 尾上一文字内側（野鳥センターがあるため全面禁止）
- 近江舞子棧橋
- 真珠棚すべて

<デッドスローエリア>

- プレジャーボートの航行規制水域の指定に基づき、湖岸から 350m、黄色いブイの内側はデッドスローとする。また規制水域内は最短距離を静かに航行すること。
- 雄琴港
- 山ノ下湾
- 矢橋帰帆島水路
- 津田江内湖（※水門閉鎖時はエリア外）

2025 年 9 月 17 日版